

大腸癌術後に胃全摘術を施行した 遺伝性非ポリポシス大腸癌の1例

星野好則 白石好 宮田潤一¹⁾
 鈴木浩介 新谷恒弘 中山隆盛
 稲葉浩久 西海孝男 森俊治
 磯部 潔 笠原正男²⁾

静岡赤十字病院 外科

1) 宮田医院

2) 静岡赤十字病院 病理部

要旨：症例は70歳代男性。30年前に上行結腸癌に右半結腸切除術を施行され、遺伝性非ポリポシス大腸癌（HNPCC）の診断で外来経過観察されていた。10年前に横行結腸癌および直腸癌に横行結腸切除および低位前方切除術、2年前に左小脳血管芽腫に腫瘍摘出術を施行されている。今回、スクリーニングの上部消化管内視鏡検査でCardia直下小弯側に0-IIaを認め、高分化型腺癌の診断で他院でESD施行された。病理ではsm 2 ly 0 v 0 DM(+)LM (+)であり、瘢痕組織より高分化型腺癌の遺残を認めた。追加切除目的に当科紹介受診となり、胃全摘術（D1+ α ）R-Y再建施行された。切除病理は中分化型管状腺癌 0-II b m ly 0 v 0 T 1 N 1 M 0 H 0 P 0 pStage I Bであった。術後経過良好であり第15病日に退院となった。今回我々はHNPCCの胃癌手術症例を経験し、若干の文献的考察を加えて報告する。

Key word：HNPCC, 遺伝性非ポリポシス大腸癌, 胃癌

I. 緒 言

遺伝性非ポリポシス性大腸癌（Hereditary Non-Polyposis Colorectal Cancer；HNPCC）は家系内に大腸癌、子宮体癌、卵巣癌、小腸癌、腎盂・尿管癌、胃癌などが好発する常染色体優性遺伝性疾患であり、全大腸癌の2-5%程度を占めるとされている¹⁾。

今回、我々はHNPCCとして外来通院中に発見された胃癌に対して、胃全摘術にて治療した一例を経験し、ここに報告する。

II. 症 例

70歳代 男性

主訴：特になし

既往歴：30年程前に上行結腸癌に対して右半結腸切除術、10年前に横行結腸および直腸癌に対して横行結腸切除および低位前方切除術、2年前に左小

脳血管芽腫に対して腫瘍切除術施行されている。

家族歴：家族3親等内に6人にHNPCC関連癌（大腸・子宮内膜・胃・卵巣・膵臓・尿管・腎盂・胆管および脳の悪性腫瘍）を認め、第1度近親者（親、子、兄弟）に本人を含めて3人のHNPCC関連癌を認める（表1）。

表1 家系図（一部略）

黒がHNPCC関連癌罹患者
斜線は死亡、矢印は本症例を示す

